

82年度  
 第2期 7月~9月  
 テーマ『仲間意識』  
なかま いしき

7月は「仕事仲間」  
 について考える。  
 今夜は最終会

# 夜間学校ニュース

発行  
 釜ヶ崎夜間学校  
 西成区萩、茶屋三十八  
 喜望の家気付  
 ごんわ 六四七-三九四六  
 (木よう日クじく9じ)

## 『仲間意識』について 観心もちつづけよう!

### 「夜クじより、喜望の家、集会室にて」

第2期、7月~9月の夜間学校は、「仲間意識」を大きなテーマとし、7月は「仕事仲間」について話し合ってきました。  
 この問題は我々にとって、きわめて大きく、重大な問題であるだけに、夜間学校はじまって以来のむつかしい話しになりました。  
 従って内容も、本来の7月のテーマである「仕事仲間」の話から、一般的な釜ヶ

崎での「仲間意識」のあれこれまで行余曲折はありましたが、その必要性や、現時点での、我々自身がかかえている問題のいづれか、は裏面で報告してきた内容でわかってもらえると思います。  
 いずれにせよ、日雇であると言う共通の基盤を持ち、このままいけば確実に「行旅病死」と言う形で殺されていく共通の運命をもち

から、外から「釜ヶ崎のアッコヤ」、ときめつけられるときには、一語になつて反発し、「仲間意識」を確認できても、普段に持ちつづけ、行動によって確認することができない弱さは、どこかで克服していかなければならないと思います。

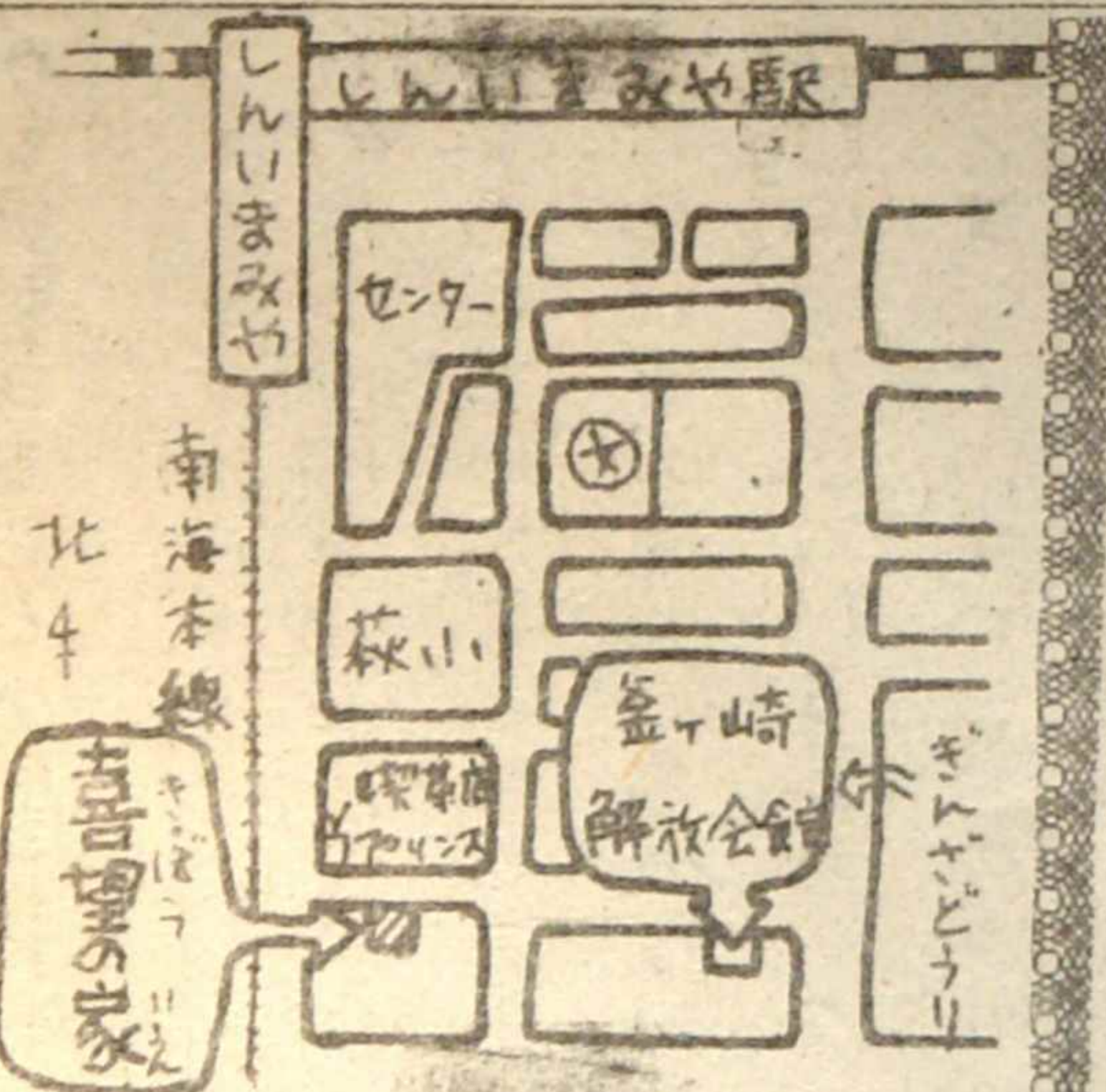
7月最後の今日は、このことを頭におきながら、おとついで27日の朝センターでのダイリ、工業のツルシ上げを材料に話し合ってみたいと思います。  
 「仲間意識」は日雇の小々な行動の積み重ねによって育つと思います。この意味から、当日どのような状態であれだけ多くの「仲間」が集まったのか、実際に行動した人や、とりまいて見ている人までさまざまです。

が、一つの目的を達成するためにどのようなまじりかについて考え、見ることは大事なことだと思ふからです。

## 夜間学校文集 メ切りせまる!

「ク日一杯メ切り」  
 夜間学校文集の2号を現在準備中です。

この「アブレ地獄をどう生き抜いてきたかなど、日雇感について、ことや考えなどを書いてみませんか。  
 原稿は喜望の家まで。



# 第二期第四回報告

## 何が仲間意識を強固に させるのか?!

「仲間意識」について7月か

ら話し合っできましたが、正直

な所、もう一つ具体的にならな

い中で、前々回は、Sさんたち

の共同生活(先週で報告)をみ

んなで考える中で、見えこくる

ものがありました。

前回は、まず次のような話し

合いがなされました。

★ ★ ★

A: 仕事のない今、誰もがアブ

しなれたためには、交代で仕事

に行くしかない。

D: 交代で仕事に行くためには

何が必要なのだろうか?

B: 労働者間に、何らかのつな

がりがなかったら交代で仕事

に行くことはできない。

A: それは職安がやる。

D: それは輪番制にする、とい

うことか? しかし、果して

職安はわれわれの立場に立っ

てやってくれるだろうか?

そのように職安を動かすには

われわれが職安を動かすだけ

の力をもたなければならぬ。

そのためにはどうしたらいい

のだろうか?

C: 輪番制になると、みんな登

録しなければならぬ。それ

を望まない人も多いのではな

いだろうか?

A: 人夫出しについては、以前

から、みんながケタオチの人

夫出しに行かなかったらなく

なる、とはよく言うことだ。

B: しかし、誰もが行かないと

いうことはないから、ケタオ

チもだんだんのさは、こくる。

C: 人夫出しはどんなことをし

てもなくならないよ。むしろ

には貯えがないから、喰うた

めにはケタオチでも行くしか

ない。

D: ケタオチの人夫出しに関し

ては喰うためには行かなけれ

ばどうしようもない所と、ケ

タオチ人夫出しのさばらな

いために、一人一人が力を合

わせるということとどこぞ一

致させるのか? それの問題

なわけですね。

E: わしらには、要求はあるけ

れども身体を動かしてまてや

るといふ気がないのではない

か。

役所に任じているだけでは、

明らかに状況は変らないだろう。

また、人夫出しに関しても、ケ

タオチをなくすという目標の為

に、個人の要求と全体の要求を

どこかで調整することが問われて

いる。★ ★ ★

われわれが仲間意識をもつて何

かを生み出していくことのヒント

を与えてくれるのは、仕事のない

今、茶臼山にできている青カンク

ループです。この中の一つのグル

ープは、4人の気の合った者どう

しが集まり、一人一人が役割をも

ちつつ共同生活を営んでいます。

この茶臼山グループに対し、参加

者の一人は、警察裏の公園で炊き

出し仲間ができていると話してく

れました。このサウラグループには、

仲間意識はないとのことですよ。

似たような境遇にありながら、

なぜこうも違ってくるのでしょうか?

共通の利害を求めて、一人一人

が積極的に関わることにより、大

きな力が生まれくることを、こ

の茶臼山グループは教えてくれます。

さて、釜ヶ崎の労働者二万五千人

に近い人が、「仲間意識」をもつた

めには何が必要なのだろうか?